

リムエンドの美しい輝きと 硬質なスポークの描く調和

デザインは気に入っているけれど装着できるサイズがない！それはカスタム派のユーザーに共通する悩みだ。それを解決してくれるのは国産アルミホイールブランドの雄、WORKにはかならない。

★PHOTO: 浅井岳男 ★TEXT: 空野稜



WORK BACK LABEL ZEAST BST2 WITH FORD MUSTANG GT

サイズやカラーはもちろん 特殊PCDにも対応可能

ホイールを選ぶ時、1番の決め手となるのは何と言ってもそのデザイン！ 言わば、オーナーのインスピレーションが最優先されるだろう。でも、デザインが気に入っても装着できるサイズがなければどうすることもできない。結局、サイズの合う物を仕方なく装着している人もいるのでは？

カスタムする上で、本当ならそんな妥協はしたくないもの。とくにアメ車の場合、日本車とはPCDが違うのでどうしても選択肢が少なくなりがちだ。でも、そんな悩みもWORKならノープロブレム。あらゆるクルマのために、サイズ/デザイン/構造など様々な

モデルをラインナップしており、しかもアメ車の様な特殊PCDのホイールも製作が可能だ。今回マスタングにチョイスした

バックレーベルのジースト・ビーエスティーツーは2ピース構造を採用。このマスタングにはブラッシュド+オプシヨンのゴールドピアスを装着するが、ほかにもブリリアントシルバーブラックを設定。さらにWORKのカスタムオーダープランにも対応しているので、自由自在なアレンジが可能。エアサスの装着&フエンダーの加工というハードなカスタムを施すが、ここまで手を加えるときまさにWORKの出番！ リム幅は8J〜12.5Jまで展開しており、インセットはマイナス87まで設定。まさに理想のスタイルを実現するために、必要不可欠と断言しよう。

- Size / F: 20x10.5J +9 5H-114.3 R: 20x10.5J ±0 5H-114.3
- Tire / NITTO NT555G2 (F: 245/30R20 R: 245/30R20)
- ディスク/ ディープロコンケイブ (形状) / フラッシュド (標準)
- リム/ FULL REVERSE (形状) / パーフアルマイト (標準)
- 付属品/ エアバルブ、ブラックセンターキャップ (標準)



装着モデルは、パーフアルマイトリムにヘアライン仕上げが見事なフラッシュドディスクのコンビネーション。ブラック&クロムの相性は抜群だが、そこに敢えてゴールドのピアスポルトを加えることで、艶やかさも放つ。

◆問い合わせ

WORK Tel. 06-6746-2859 (西日本コールセンター) Tel. 052-777-4512 (中日本コールセンター)
Tel. 048-688-7555 (東日本コールセンター) <https://www.work-wheels.co.jp>

◆車両協力

PIT BULL Tel. 0761-27-0809 <https://pit-bull.jp/>



□ブラッシュド □マットブラック □マットシルバー



□コンポジットハーフブラッシュド □ハーフポリッシュ

◆問い合わせ



TEL 06-6746-2859 (西日本コールセンター)
TEL 052-777-4512 (中日本コールセンター)
TEL 048-688-7555 (東日本コールセンター)
https://www.work-wheels.co.jp

NEW MODEL

WORK GNOSIS CVF

グノシス・シーブイエフ

- 構造 ツーピース
- inch 22SR / 21SR / 21FR / 20FR / 20SR / 19FR
- RIM FULL REVERSE / STEP RIM
- COP リムアレンジ / クリアカラー / セミオーダーカラー / 特殊P.C.D.
- その他 TPMS 対応

洗練された造形が生む知的さ



細さを追求したスポークが軽快さや躍動感を予感させる

WORK WHEEL JACKの会場で、サブライズ公開されたのが、このグノシスCVF。CVFとはコンケイブ・ファイブ・スポークの頭文字を組み合わせたもので、奇をてらつことのない王道デザインで、立体感を追求する。

外周に向かってシェイプされるスポークはビレット感が強調されており、とくに先端部分はアンダーカットが施され、軽量化や軽快感の演出に貢献している。その先端部から立ち上がったスポークはセンターハブに向かって緩やかな弧を描いており、まさに美しいコンケイブデザインを実現していると言えるだろう。

基本カラーはブラッシュド系だが、もちろんカラーアレンジも可能。上品さを演出するにはバフを用いたハーフ・フィニッシュやコンポジットハーフブラッシュドなどだが、ワイルドな雰囲気を出し出すマットブラック×ブラックアルミトリムは、とくにアメ車に最適かも知れない。

EVENT REPORT 19th Nov 2023

開催場所 ●兵庫県・三木市立かじやの里メッセみき・駐車場
主催 ●株式会社ワークウェールズインターナショナル (https://workwheelsjack.amebaownd.com/)
共催 ●Car Shop YSR
協力 ●株式会社ワーク (https://www.work-wheels.co.jp/)
PHOTO ●浅井岳男 TEXT ●空野稜



WORK WHEELS JACK 3rd

WORK WHEELS User event

WORKユーザーにとって
パラダイスの様な空間!



エントリー条件はただ一つ WORKを装着していること
日本車からアメ車まで、様々なホイールをラインナップするWORK。そのWORKホイールを愛用するユーザーが一同に集う「WORK WHEELS JACK」が、今年も開催された。
会場のメッセ三木にはスポーツカーやミニバン、さらにはSUVと合計200台以上が集合。まさにそこは、リアルなWORKのシヨールーム状態。イベントの主催は大阪のグッドガンインターナショナルとYSRだが、もちろんWORKも全面的にバックアップし、ほぼすべてのモデルを展示

しかも会場では左ページで紹介している最新作のグノシスCVFが、12月1日の発表に先駆け、世界のプレ公開を実施。
WORKの田中社長は「クルマをカスタムするのは楽しいことですが、安全性を決して疎かにしないで下さい。タイヤとホイールはオーナーの命を預ける大切な部品なので、性能も重視して選んで下さい」と、来場者全員にメッセージを伝えていた。
イベントのラストにはアワードも発表され、受賞者にはそれぞれ特製の盾がプレゼントされ、参加者は皆、次回の再会を誓って、無事イベントは終了となった。



NITTO JAPAN
ホイールと一心同体と言うべきタイヤ。しかもカスタムに積極的に取り組むNITTOタイヤが、ブースを出展。カスタムに最適なデザイン性をアピールしていた。